

Open Accessへの急な動きに対する 国内外の研究者・図書館の反応・対策

岡山大学・附属図書館長

甲賀研一郎

自己紹介 甲賀研一郎

○ 研究 専門：物理・化学

対象：水（液体）

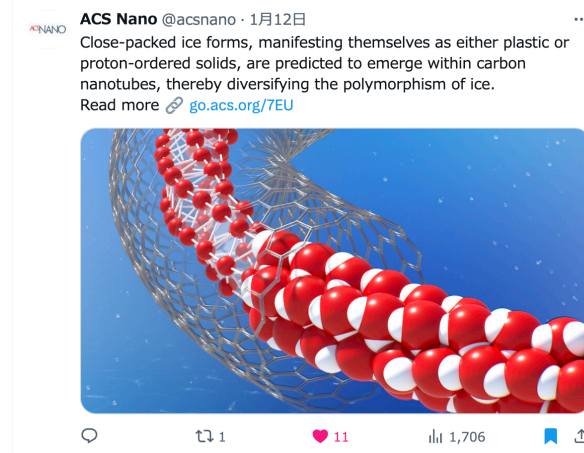
手法：理論・コンピュータ・シミュレーション

○ 学会 日本物理学会, 日本化学会, 米国物理学会 (APS)

○ 雑誌

- American Physical Society (APS)
- American Institute of Physics (AIP)
- American Chemical Society (ACS)
- Royal Society of Chemistry (RSC)

○ OA(2023) RSCに2報 (大学のOA枠10報)



米国・欧州・国内の研究者との対話

アメリカ (Cornell, 教授)	助成機関がサポートすべき. 学会系雑誌に投稿 化学系のライブラリアンが教員向けにセミナー
デンマーク (Marie Curie ポスドク)	全て即時Open, Dataも
スペイン (Madrid, 教授)	国レベルのOA規則 (人事評価に関わる) 機関リポジトリに登録でOK (即時である必要なし)
日本	教授 (化学・実験系) 研究費はまず結果を出すため必要. APCに回す余裕ない 准教授 (化学・計算) 可能な限りAPC支払う

米国の図書館との対話 Cornell大学図書館

大学によりOAポリシーの強さが異なる

カリフォルニア, MITは先端

MITは数年前にBig Deal(1社)を中止, しかし出版論文数は減少せず

情報 Scholarly Kitchen
Higher Education Leadership Initiative for Open Scholarship (HELIOS Open)

分野別アーカイブ: 物理, 化学, 生物, 人文系も増加傾向

機関リポジトリ: 対応するアーカイブがない研究分野

契約: 転換契約 全雑誌が対象か否か

Open Accessへの対策

- 研究者はどうすべきか

Impact factor DORA (The Declaration on Research Assessment)

アーカイブ・リポジトリを最大限活用

Embargoを確認

APC免除規定の確認 転換契約の利用：10月に投稿

- 大学図書館・関係部署はどうすべきか

OA化の方法の周知

Cornell大学の例

<https://guides.library.cornell.edu/openaccess>

Open Dataへの準備

- OAの流れ（APCに基づくもの）は持続可能か

APCによるOA化は持続不可能. 研究活動への影響大

- 核心をなす「問い」

即時（時間差 $\Delta t = 0$ ）か否か（Embargo期間を許すか）